



SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

東証スタンダード:3131

2026年3月期 第1四半期決算説明資料

2025年8月8日

1. 定性情報サマリ(26年3月期 Q1)

■販売面 ⇒システム製品分野及びディスプレイ分野の伸長により2.5%の増収。

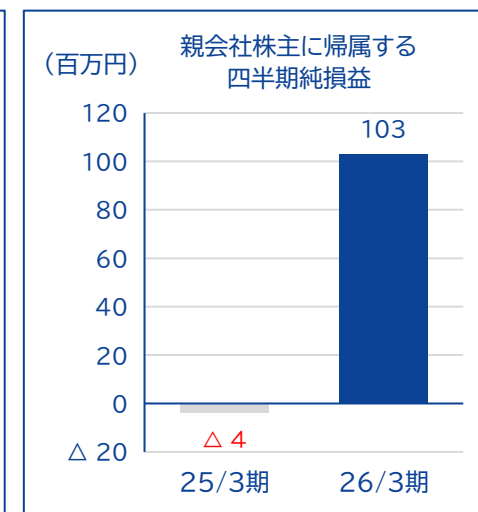
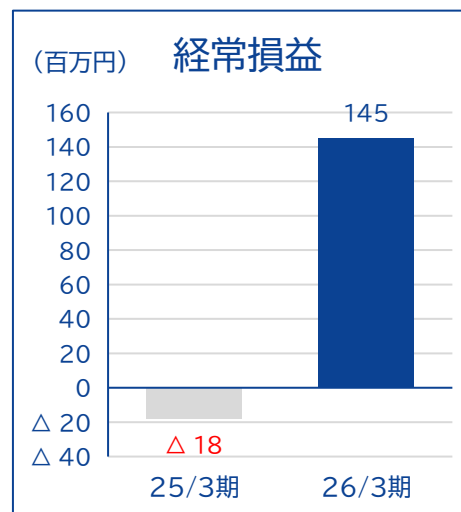
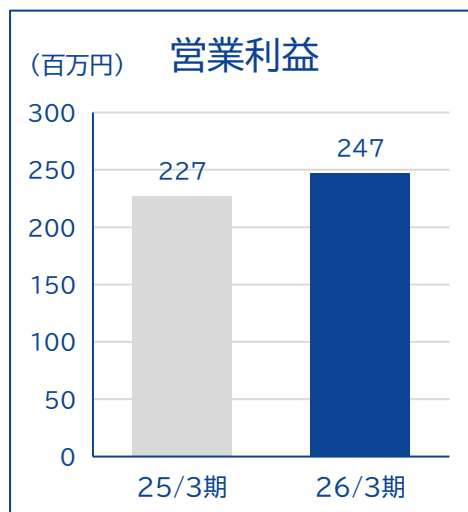
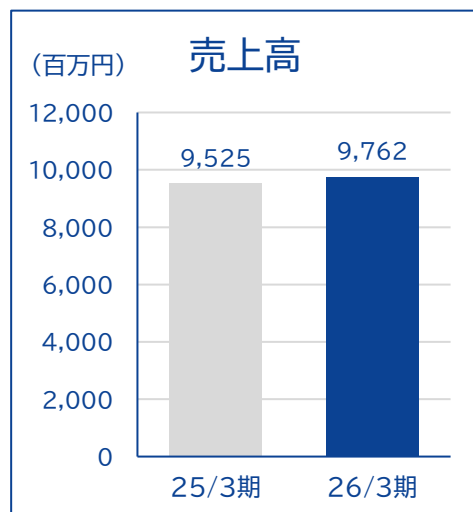
項目		要因	増減
分野別売上高	半導体製品	一部の車載向けビジネスの商流移管(織込み済)と、従来型メモリの供給制約が主な要因となり減少。	▲10.3%
	ディスプレイ	TV及びPC向け液晶モジュールビジネス並びに有機ELビジネスの伸長により増加。	+65.2%
	システム製品	検査等装置向けが堅調に推移したことと、EMSビジネスの緩やかな回復により増加。	+16.7
	バッテリー&電力機器	主力の家庭用ESS向けビジネスが減少したため減少。	▲5.0%
売上高		当初の計画に織込んでいる半導体製品分野の一部ビジネスの商流移管と、従来型メモリの供給制約が足枷となり減少したが、ディスプレイ分野とシステム製品分野の伸長により、売上高は増加。	+2.5%
売上総利益		増収効果により売上総利益は増加。	+2.2%

■損益面 ⇒ 営業利益は8.7%増益、経常損益以下の指標は「黒字転換」。

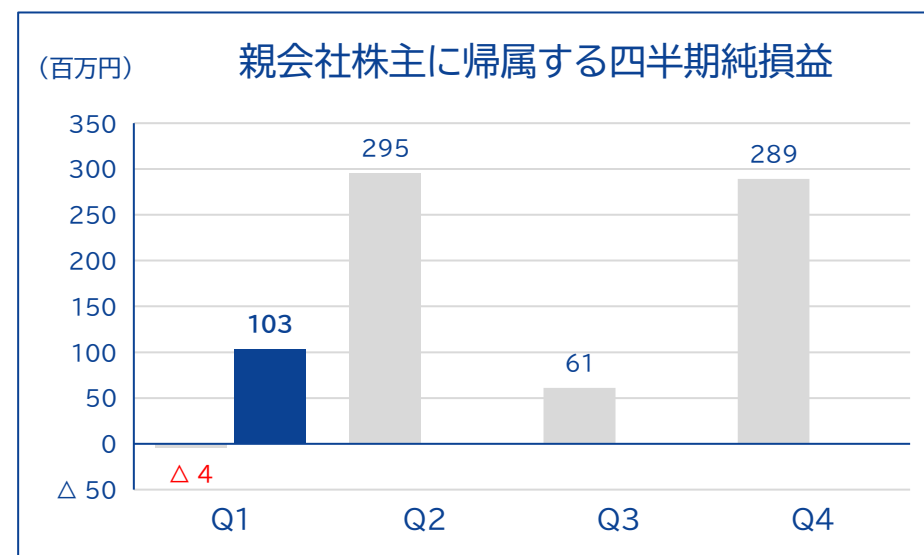
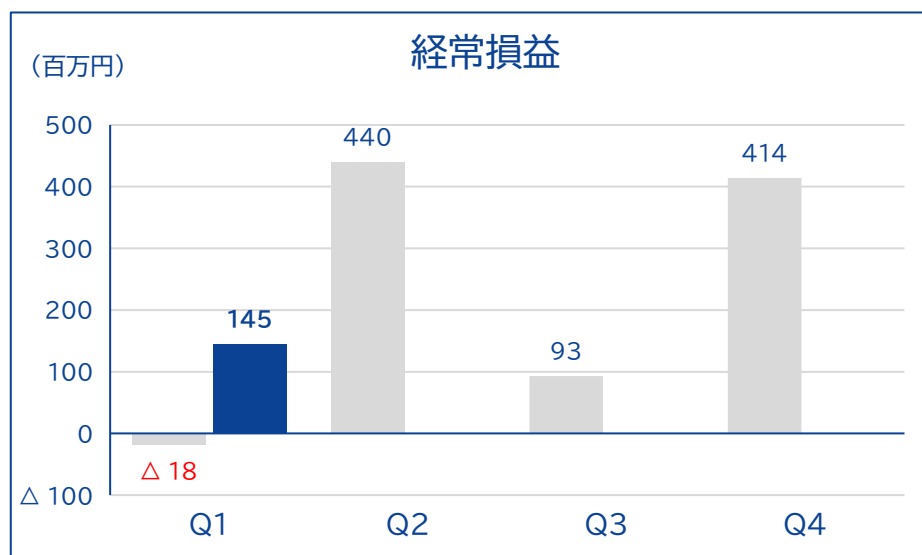
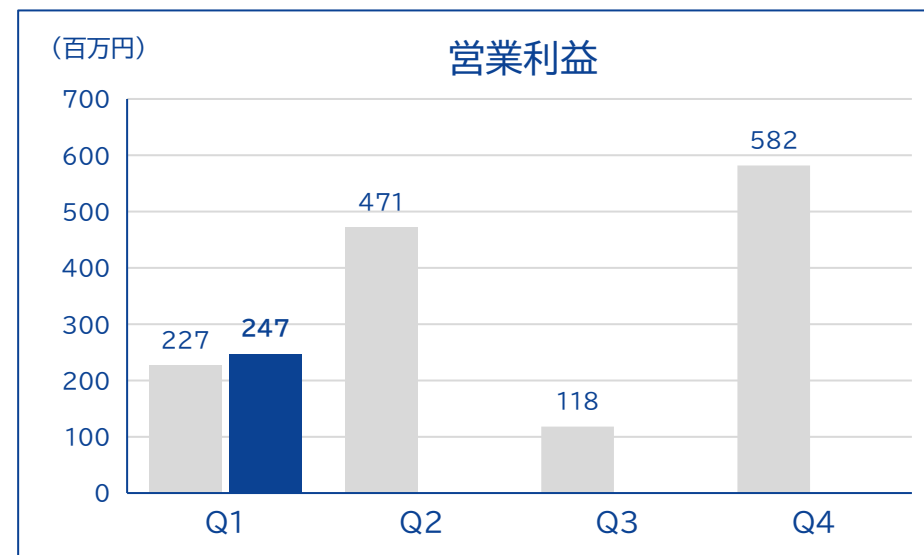
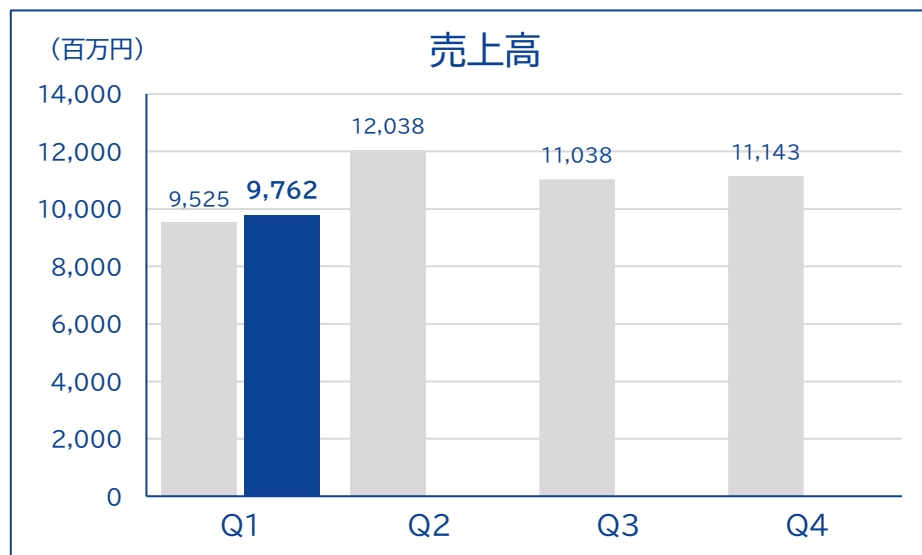
項目	要因	増減
営業利益	売上総利益の増加と、販売費及び一般管理費は前年同期並みの推移で増益。	+8.7%
経常損益	・営業利益の増益 ・Q1末時点でドル建て資産と負債のバランス化の促進によって為替差損が圧縮 ・有利子負債の減少にドル金利の低下が加わり支払利息が大幅に減少	+163 百万円
親会社株主に帰属する四半期純損益		+107 百万円

2. 業績サマリ(26年3月期 Q1)

金額単位:百万円	前年度Q1実績 (25年3月期)	当年度Q1実績 (26年3月期)	増減額	増減率
売上高	9,525	9,762	+237	+2.5%
営業利益	227	247	+19	+8.7%
経常損益	△18	145	+163	**
親会社株主に帰属 する四半期純損益	△4	103	+107	**

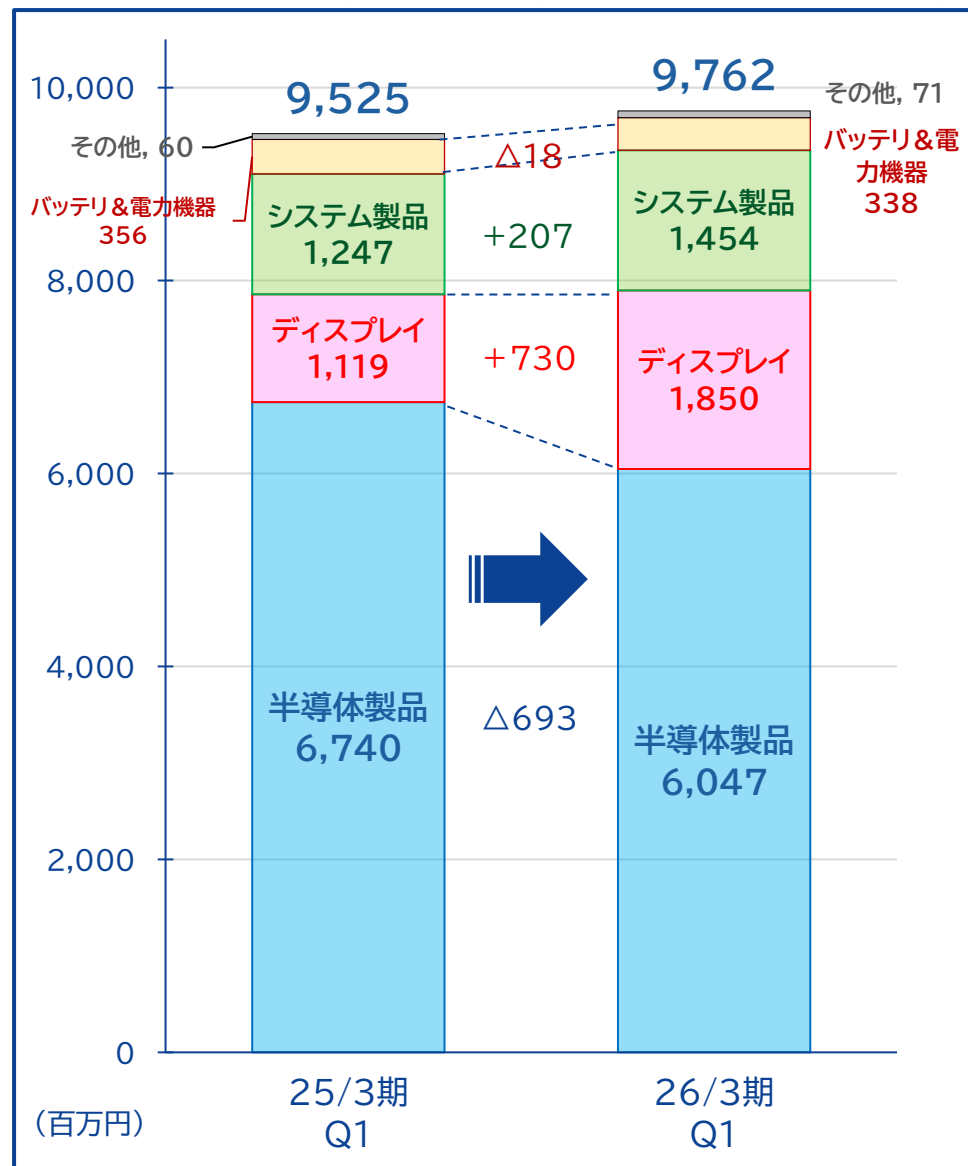


3. 26年3月期 四半期別業績(前期対比)



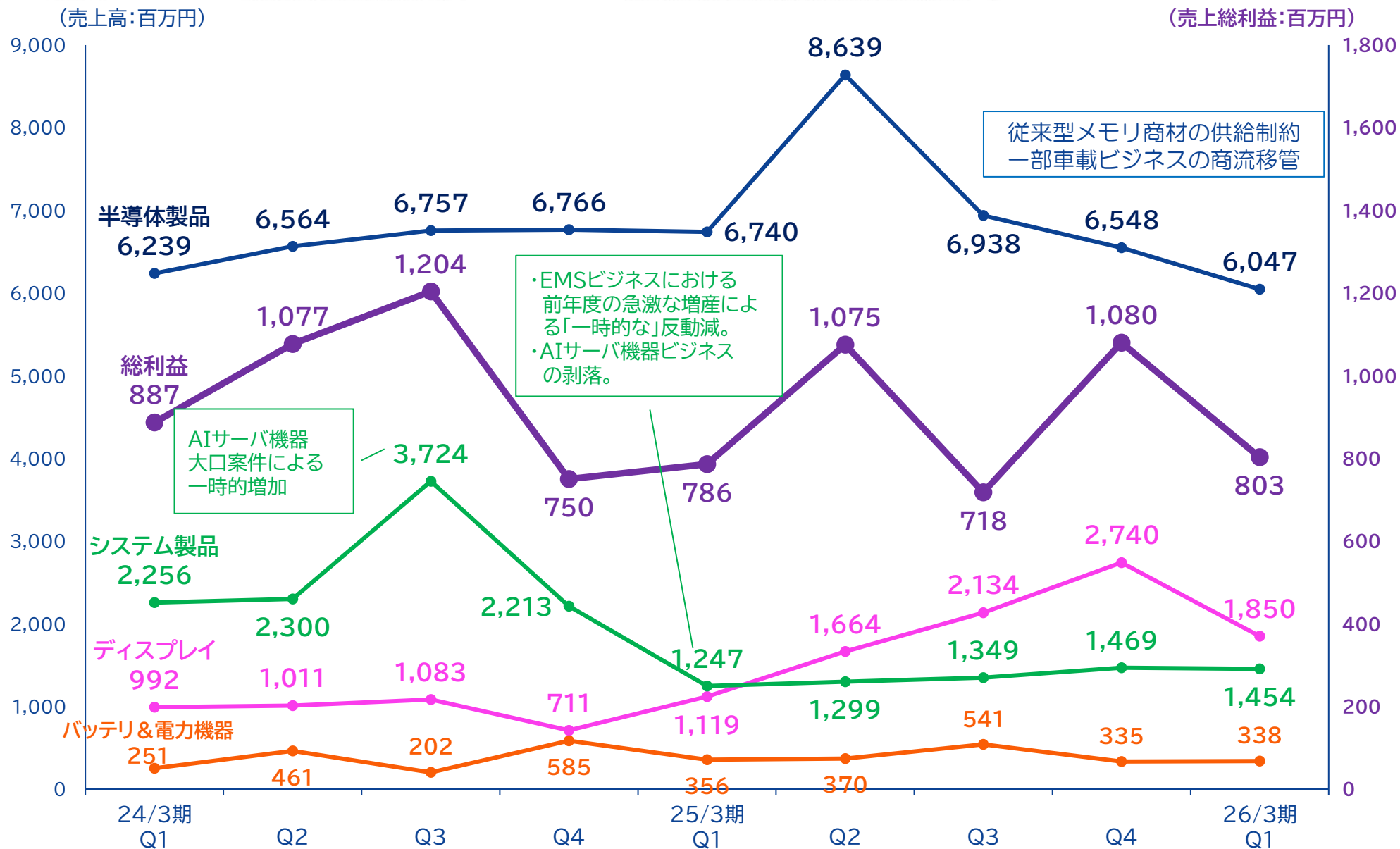
凡例：  25/3期  26/3期

4. 販売状況(分野別売上高:前期対比)

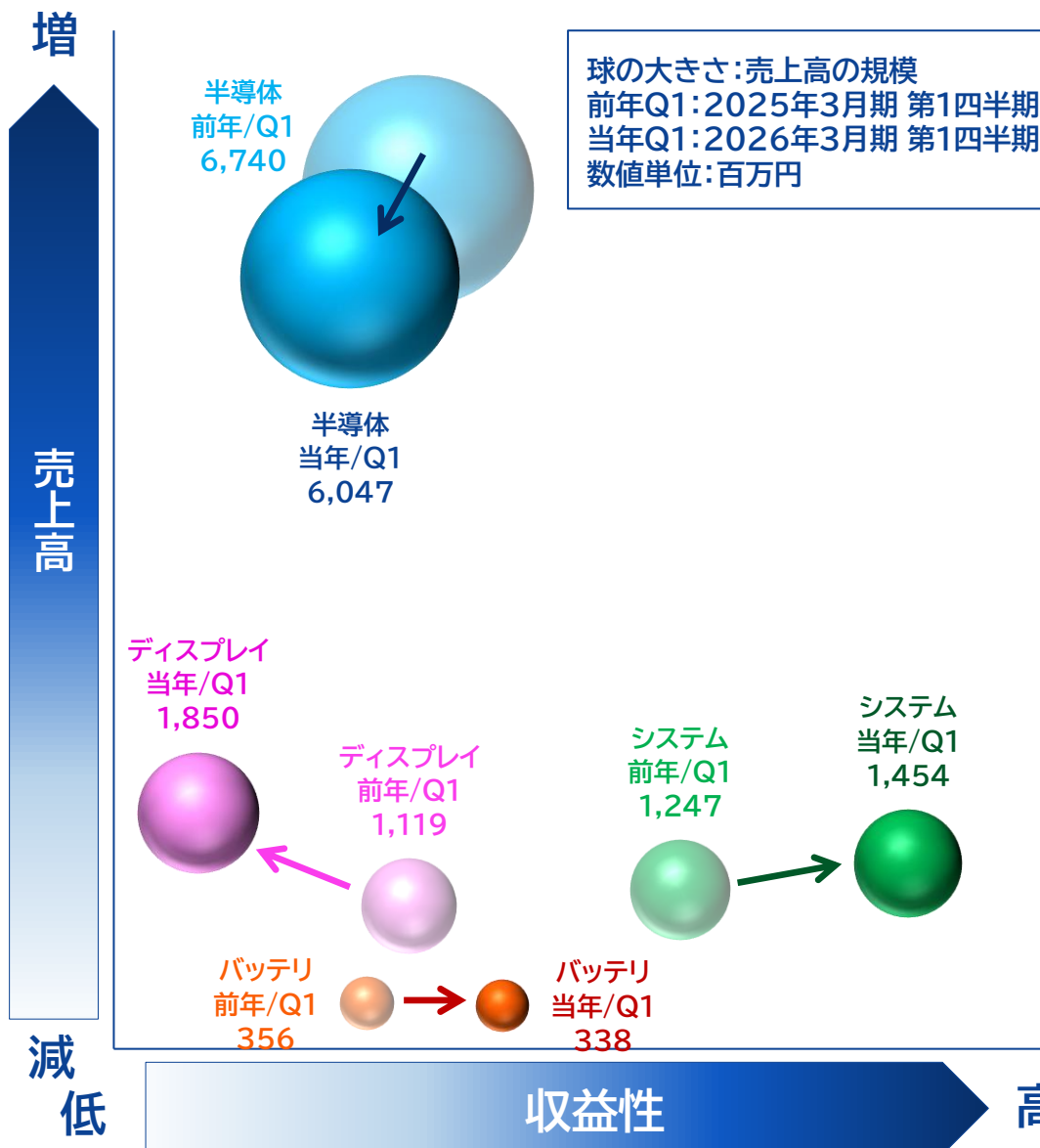


主要品目	増減%	販売状況
半導体製品	▲10.3%	一部の車載向けビジネスの商流移管(織込み済)と、従来型メモリの供給制約が主な要因となり減少。
ディスプレイ	+65.2%	TV及びPC向け液晶モジュールビジネス並びに有機ELビジネスの伸長により増加。
システム製品	+16.7%	検査等装置向けが堅調に推移したことと、EMSビジネスの緩やかな回復により増加。
バッテリー&電力機器	▲5.0%	主力の家庭用ESS向けビジネスが減少したため減少。

5. 販売状況(主要分野別売上高/総利益推移) SHINDEN HIGHTEX CORPORATION



6. 主要分野別パフォーマンスマップ



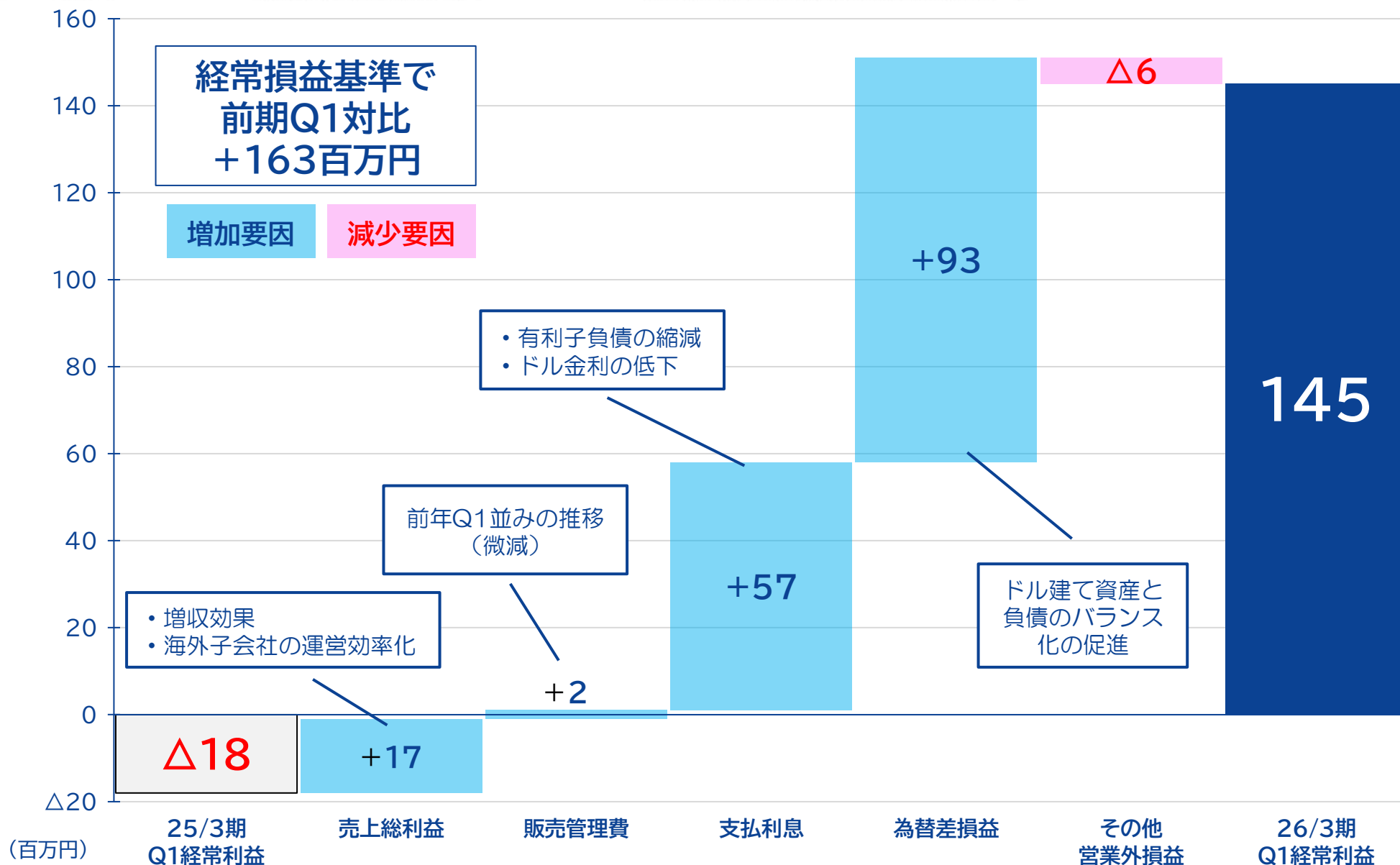
分野	売上高と収益性の評価
半導体製品	一部ビジネスの商流移管と従来型メモリの供給制約による減収に加え、円高進行による原価率の上昇により収益性が悪化している。
ディスプレイ	ビジネス自体増加基調にあるものの、半導体製品分野同様、円高進行による原価率の上昇により収益性(率)が悪化している。 ただし、利益額は増加している。
システム製品	検査等装置ビジネスの堅調な推移とEMSビジネスの緩やかな回復による増収効果により収益性が改善している。
バッテリー&電力機器	主力の家庭用蓄電システムの減少により売上高は減少している一方、その他のバッテリービジネスの積み重ねと、周辺機器のソリューション展開が奏功し収益性は改善している。

「2026年3月期の重点施策」を着実に実行。
(2025年5月12日公表)※次ページご参照

7. 26年3月期 重点施策(5月12日公表資料より抜粋)

分野	課題or機会	重点施策
半導体製品	車載向け商流移管による減少	商流獲得に向けた活動強化
	主要仕入先製品群と国内顧客需要のミスマッチ	従来型メモリの代替品を拡販
		HBMの国内需要リサーチ(長期的視点)
ディスプレイ	有機EL案件の引合い増加	既存顧客のポテンシャルを活用した拡販
システム製品	AIサーバ機器の引合い増えるも、受注が不安定	サーバー機器のメーカーポートフォリオ強化し受注確度を高める
		案件の精査、市場調査の強化
	DX化の進展	通信モジュールの更なるデザイン
	自動運転分野への参入	農業分野において販売ネットワークを構築
バッテリー&電力機器	蓄電需要の高まり	家庭用蓄電システムの拡販
		系統用蓄電ビジネスへの参入準備
その他	環境負荷低減に資するビジネスへの関心	製造設備向け加熱排気パイプの拡販(省エネ化)
		多層構造で反射と放射を両立しゼロエネルギーによる冷却を実現した光学フィルム(スペースクール)の拡販

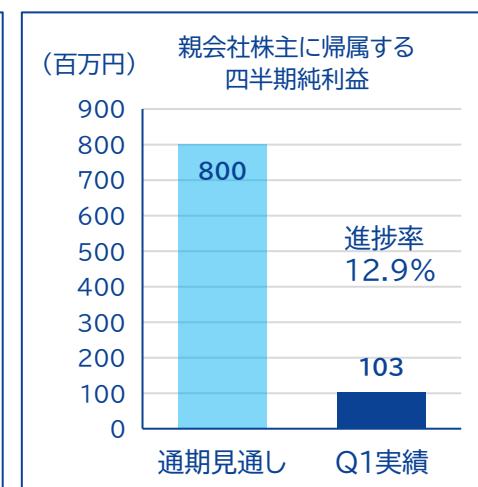
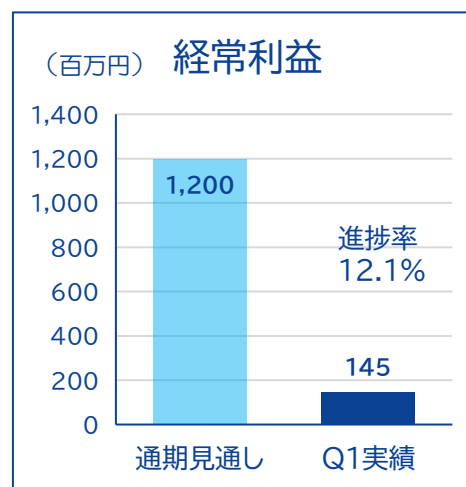
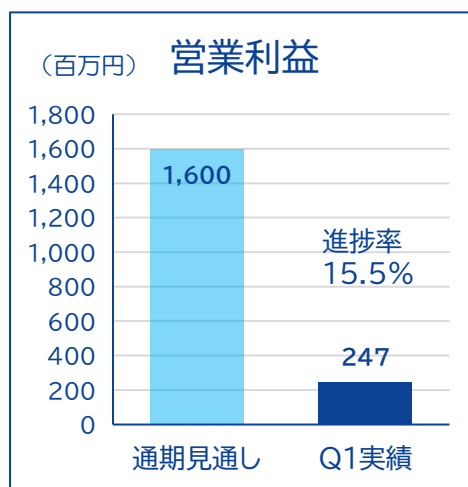
8. 経常損益の変動要因チャート(Q1)



9. 通期見通し進捗状況(26年3月期 Q1)

従来型メモリ商材の供給制約や日米関税交渉の合意に起因する影響等、当社グループを取り巻く環境に不確実性が残っているものの、足元のビジネスの状況は、2025年5月12日に公表した2026年3月期の通期業績予想の想定を上回る推移となる。

金額単位:百万円	通期見通し (26年3月期)	Q1実績 (26年3月期)	進捗率
売上高	46,200	9,762	21.1%
営業利益	1,600	247	15.5%
経常利益	1,200	145	12.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	800	103	12.9%



本資料お取扱上のご注意



SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

本資料は、シンデン・ハイテックス株式会社(以下、当社)の事業及び業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまっています。

すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

本資料における将来の展望に関する表明は、2025年8月8日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の展望に対する表明、予想に関しては、必ずしも実現することをお約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもあり得ますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ先

シンデン・ハイテックス株式会社
経営企画室

フリーコール:0800-5000-345